

北海道におけるノーステック財団の「食クラスター」形成

～財団法人北海道科学技術総合振興センター クラスター推進部の取組み事例～

1 はじめに

北海道では、農林水産省が進める食料産業クラスター推進事業、経済産業省や文部科学省が進めるクラスター事業の他に、道内の経済団体が北海道経済自立化の切り札として「地域産業振興」のための北海道産業クラスター創造活動を推進している。

北海道が比較優位にある「食」「住」「遊（観光）」を重点領域とした北海道型産業クラスターの形成を目指しているが、その中でも特に北海道の基幹産業である農業を軸に食品加工・農業機械・食品加工機械などの関連産業の連携拡大を図ろうという「食クラスター」の形成に積極的に取り組んでいる。その中核的な役割を財団法人北海道科学技術総合振興センター（以下、ノーステック財団）が担っている。

本稿では、「食」という部分で農水省の食料産業クラスター推進事業と多くの共通点が見い出せるノーステック財団の「食クラスター形成」の取組みを紹介していく。



写真1 クラスター推進部の戸島部長(右)、栗田次長(左)

2 ノーステック財団設立までの経緯

ノーステック財団は、北海道産業の振興と活力のある地域経済の実現、そして道民生活の向上を目的に、科学・産業技術の振興に関する事業を総合的に推進する財団で、研究開発から実用化・事業化までの一貫した支援を行っている。

1996年に道内経済4団体が「北海道産業クラスター創造研究会」を設立したことに遡る。その後、1998年

にノーステック財団の前身であるホクタック財団（経産省系）に「クラスター事業&FC担当部」を設置して実践活動に入る。2000年には北海道大学構内に研究施設「コラボほっかいどう」を竣工し様々な支援を行っている。また、2001年にはホクサイテック財団（文科省系）と統合し、ノーステック財団が設立され、4つの事業内容（①研究開発支援事業、②実用化・事業家支援事業、③産学官連携事業、④サポート事業）で活動している。

役員を道内の企業・行政（道・札幌市）などからの出向者62名で構成している。クラスター推進部は企業からのビジネスアイデアを基に事業化をコーディネートしている。

3 北海道産業クラスター創造活動におけるビジネス開発の手法

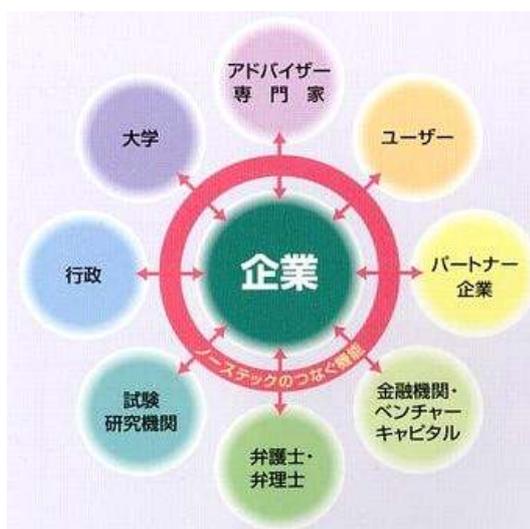


図1 北海道産業クラスターのすすめ方

従来のビジネス開発では、行政の支援制度は揃っているものの、企業のネットワーク不足や各種情報収集力が脆弱などの問題点が存在していた。これらの問題点を改善するため、ノーステック財団は“つなぐ機能”を強化し、仲介役となり企業とサポーター（関係機関）との連携を強め事業化を目指している。（図1）

また、具体的なビジネス開発の手法は表1に示すとおりである。企業から「テーマ発掘・一次対応段階」で毎年100件程の持ち込みのビジネス相談があり、「ビジネスプラン検討段階」で20～30件に絞られ、「開発段階」で5～6件程度になりプロジェクト化されている。食の

分野に関わるものは、先端科学技術の利用にとどまらず地場の農水産物の利用や未利用資源の有効活用など幅広い。プロジェクトは企業を中心に大学・公設試験場、外部専門家などをサポートメンバーに加えたプロジェクトチームを編成し、技術的課題などを検討しながらビジネスプランのブラッシュアップを図る。

ビジネスプランの課題が解決した後、いよいよ本格的な開発段階に進む。概ね開発期間は1～2年間とされ、開発段階終了後の事業化段階でさらにフォローアップ支援を行う。

これらの活動によって、1998年度から2006年度までに91件のプロジェクトが事業化され、プロジェクトの累計売上は約115億円に達した。

食に関するプロジェクトでは、馬鈴薯・タマネギなどの畑作用農業機械、酪農家向けの自動給餌機をはじめ、道産の原料にこだわった菓子や優良乳酸菌を用いた生ハムなどがある。

4 食クラスター形成に向けた戦略

1998年度にスタートした北海道産業クラスター創造活動におけるビジネス開発の実績により食関連のプロジェクトが蓄積されてきたことから、「食クラスター形成」に向けた戦略的な事業に2006年度から着手している。計画では5年後の2009年度にクラスタープロジェクト全体の売上げ目標の3割（50億円程度）を「食クラスター」の戦略事業によって達成する予定。図2は、

7つの食に関わる分野を原料調達から販売までのコーディネートの流れに沿って各段階で技術的要素を示している。

クラスター推進部が企業とのつなぎ役となり、担い手企業とサポーター（関係機関）、そして企業間・地域間との連携を深めながらクラスター化を目指している。

食クラスターには、地元の金融機関も動き始めており各種商談会の開催などが実施されている。しかしながら、北海道には基盤技術を有する企業が他府県と比較すると少ないため、大学・公設試験場や外部専門家のアドバイスを理解することが難しく、開発を断念するケースも見受けられる。このような課題に対してノーステック財団がどこまで応えることができるかが課題として挙げられている。

5 食料産業クラスター推進事業と連携の可能性

ノーステック財団の「食クラスター形成」に向けた戦略事業は、農水省が推進している「食料産業クラスター推進事業」と共通する部分が多い。

企業がお互いに持っている技術シーズや大学等の研究シーズなどを活用することで商品開発は格段に進み、食を中心としたクラスター形成が促進されることになるだろう。

ノーステック財団では北海道の基幹産業である農業と食品加工産業とを有機的に連携し商品の高付加価値化に努めることで北海道経済の発展を図るとともに、我

表1 ビジネス開発の流れ

STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
テーマ発掘・一次対応段階	ビジネスプラン検討段階	開発段階	事業化段階
	ビジネスプラン検討会議の設置	プロジェクト推進会議の設置	フォローアップ会議の設置
<p>案件の事業化の可能性を企業とともに議論し、簡易な検査・裏づけを行い、「ビジネスプラン検討シート」を作成することによって現段階のテーマのレベルを評価する。</p>	<p>企業、アドバイザーなどで構成される検討チームを編成する。ビジネスプラン検討会議において案件が抱えている課題・問題点を洗い出し、それらに対する対策案を議論し、ビジネスプランを作成する。</p>	<p>企業、アドバイザーなどで構成される開発チームを編成する。プロジェクト推進会議において開発の進捗管理を行うと共に、検討段階では予見できなかった問題に対する対策を講じる。</p>	<p>フォローアップ会議においてテストマーケティング結果を踏まえた改善・改良・PR・販促方法の検討など、最終商品や応用製品開発に向けたフォローアップを行う。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 市場調査(参入市場があるかどうか) 大学等との共同研究(技術的に可能か) 知的所有権などの調査とその処理 事業化の見込み(販売体制の検討) 	<ul style="list-style-type: none"> 試験・試作・製造 市場性調査(参入市場の状況) 大学等との共同研究(技術課題解決) 	<p>[生産面]</p> <ul style="list-style-type: none"> 量産化に向けた生産体制、仕入体制の相談 <p>[販売面]</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売体制の相談 販売会社の紹介 販売先の紹介 販売計画策定の協力 販売会議への参加 <p>[広報面]</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発商品のPR 成果発表会の実施 <p>[資金面]</p> <ul style="list-style-type: none"> フォローアップ資金へのつなぎ 諸制度の照会 <p>[新規開発または開発継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助制度の紹介 開発体制作りの協力 改良、改善への協力 <p>[事業化チームの行司役]</p> <ul style="list-style-type: none"> 利益配分・知的所有権・企業間調整 契約書作成

資料: ノーステック財団クラスター推進部「クラスターレポート2007」より引用作成。

が国の食料供給基地としての役割を果たしていくことに尽力したいと考えている。

【お問い合わせ】

財団法人 北海道科学技術総合振興センター（通称：ノーステック財団）クラスター推進部 戸島 俊一 氏
 〒001-0021 札幌市北区北 21 条西 12 丁目
 コラボほっかいどう内
 TEL 011-708-6526 FAX 011-708-6529
 URL <http://www.noastec.jp>

（文：北海道大学大学院農学研究院 研究員 工藤 康彦）
 *社団法人食品需給研究センター 非常勤研究員

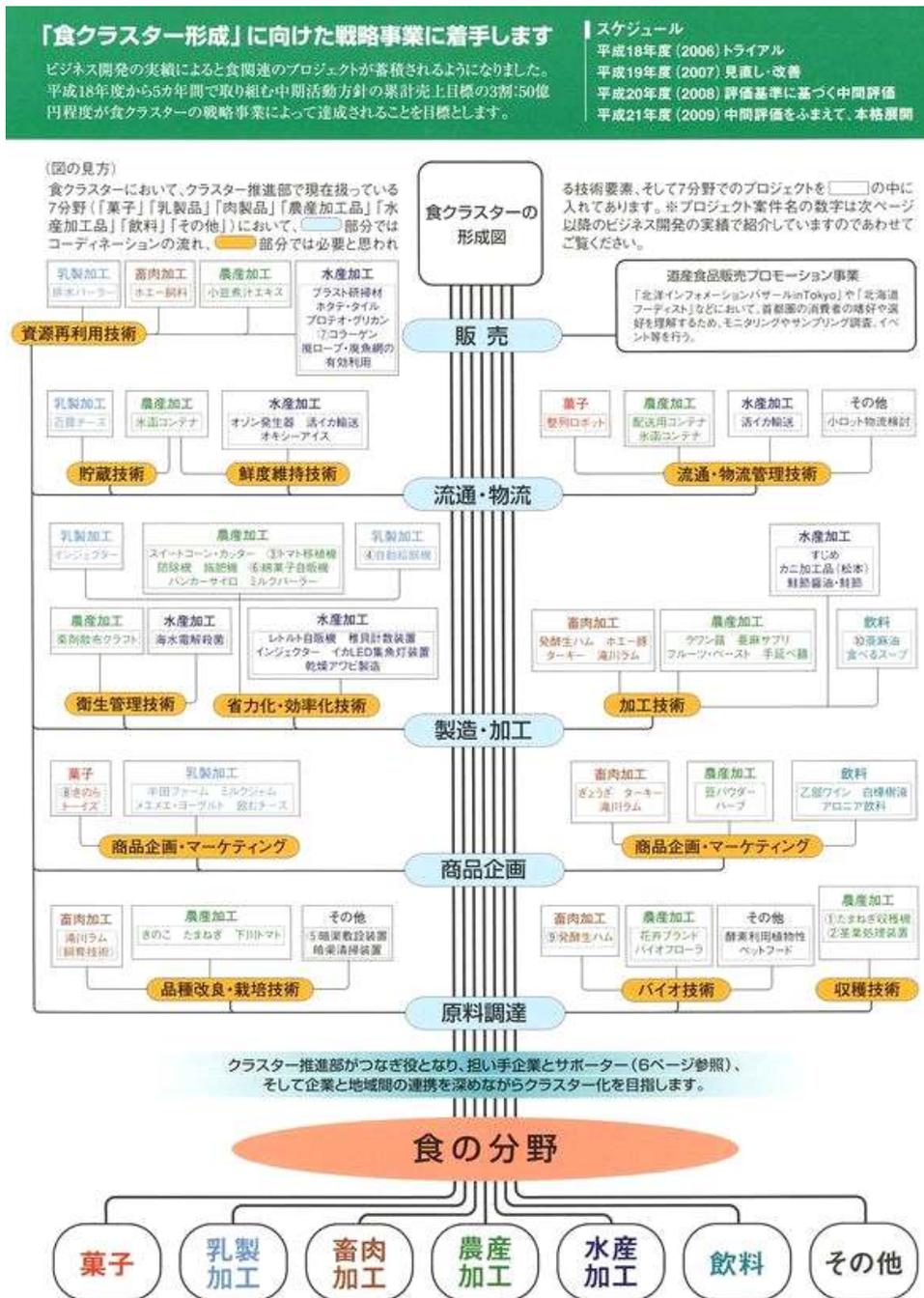


図2 「食クラスター形成」に向けた戦略フロー
 資料：ノーステック財団クラスター推進部「クラスターレポート2007」より引用。